

科目名	形態機能学 I Structure & Function of the Human Body Connected to Nursing		担当教員 (研究室番号)	菱沼 典子 (201) 他		教員への連絡方法 (メールアドレス)	michiko.hishinuma@mcn.ac.jp					
履修 年次	1年次 前期	科目 区分	専門支持科目		選択 区分	必修	単位数 (時間)	2(30)	授業 形態	講義	科目等 履修生	可
											オープンクラス	否
科目 目的	形態機能学Ⅱと合わせて、正常な人体の構造と機能について、看護実践に結びつけて理解することが目的である。											
ディプロマ・ ポリシー (DP)	主要なDP	E 看護専門職者としての役割を認識し、看護の実践に活用するための専門的知識を身につけている。(知識・理解)										
	関連する DP	A 人々の生命と人間としての尊厳及び権利を尊重し、共感的に関わる姿勢を身につけている。(姿勢・態度) G 身につけた知識を基盤に、収集した情報を科学的・論理的に分析し、人々の健康に関する課題を把握する能力を身につけている。(思考・判断)										
到達 目標	形態機能学Ⅱと合わせて 1 人が生物として生きていくのに必要なことは何かを、日常生活行動と関連付けて説明できる。 2 人の24時間の生活行動を体がどのように遂行しているかを説明できる。 3 皮膚の外から透視した、内臓の形、位置関係を図示できる。											
成績評価方法 (基準)	定期試験の成績 (100%) 注: 試験は1回目～14回目「動く」までの内容とする。日程は別途指示する。											
再試験の有無と 基準等	再試験は必要と認めた場合に実施する。											
教科書	菱沼典子: 看護形態機能学生活行動からみたからだ 第4版、日本看護協会出版会											
参考書等	教科書のみでは不足なので、以下の①～③の中から使いやすいものを手元に置かれることを推奨する。 ①ヴェルナー、プラッツァー、平田幸男訳: 分冊解剖学アトラスⅠ、Ⅱ、Ⅲ 第6版(原著10版)、文光堂 ②ヴェルナー、プラッツァー、平田幸男訳: 解剖学アトラス(原著10版)、文光堂 ③坂井建雄、岡田隆夫: 系統看護学講座 専門基礎 [1]人体の構造と機能 第10版解剖生理学、医学書院 以下は読み物として紹介する。 菱沼典子: 看護につなげる形態機能学、メヂカルフレンド社 菱沼典子: 図解見えない体、ライフサポート社 坂井建雄: 東大講義録解剖学はじめての一步、日本医事新報社											
学生の主体性を伸ばす ための教育方法と 学生への期待	看護学は健康の視点から、人とその人の生活を対象とする学問である。人は体という実体を有しており、その体がどのような造り(形と動き)になっているかは、看護学において最も基本的な知識の一つである。体の知識は、病気の理解、病気等による生活行動への支障の理解、看護援助につながっていくので、しっかり身につけてほしい。また、この科目は1年次前期に置かれており、大学における学習方法を身につけることも、目標としている。試行錯誤しながら、わからないことを自分で学んでいく方法を見出して欲しい。 基本は講義とグループ学習で行う。講義では自分のノートを作ること。授業中にノートに書き取ったことを参考書で確認する習慣をつけること。 自分の体を使って、体の構造・仕組みを確認する演習を適宜行う。											
備考	本科目は大平(母性看護学)、大西(形態機能学Ⅲ、Ⅳ)、脇坂(成人看護学)、関根(成人看護学)、菅原(基礎看護学)、岡根(基礎看護学)、田端(老年看護学)、篠原(在宅・公衆衛生看護学)、平生(在宅・公衆衛生看護学)が適宜参加する。学習項目の順番、担当者が変更する場合がある。 形態機能学Ⅰを前半15回(奇数回は火曜日、偶数回は木曜日)で行い、後半は形態機能学Ⅱを行う。 本教科の内容は、形態機能学Ⅲ、Ⅳ、Ⅴとも関連するので、各自内容を照らして統合して学んでほしい。											
回	学習項目				学習内容				主担当 教員	授業 方法		
1回	人体の構造・機能と看護学				人体の構造と機能を、なぜ今学ぶのか。 大学での勉強の仕方、ノートの作り方を含めた、科目のオリエンテーション				菱沼	講義		
2回	人体を造る4つの組織				体の4種類の組織(上皮組織、筋組織、結合組織、神経組織) 体の中は体液により水浸しであること 皮膚				菱沼	講義		
3回	生命維持に必須の内部環境の恒常性				細胞外液の恒常性 生命維持と生活行動の関係				菱沼	講義		
4回	体内の流通機構①				心臓の構造 血管の構造				菱沼	講義		
5回	体内の流通機構②				リンパ管、リンパ節 脾臓 体内の物流機構としての循環器				菱沼	講義		
6回	情報を受け、認識し、対応を判断①				感覚受容器と神経系、効果器の関係 特殊感覚受容器・皮膚 圧受容器・伸展受容器・化学受容器				菱沼	講義		
7回	情報を受け、認識し、対応を判断②				中枢神経(脳・脊髄)				菱沼	講義		
8回	情報を受け、認識し、対応を判断③				体性神経 自律神経系				菱沼	講義		
9回	演習A				外部情報遮断実験				菱沼他	演習		
10回	液性調節				内分泌器官(視床下部、下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎、ランゲルハンス島、性腺)				平生 菱沼	講義		

回	学習項目	学習内容	主担当 教員	授業 方法
11回	動く①	骨格	菱沼	講義
12回	動く②	骨格筋	篠原 菱沼	講義
13回	演習B	関節運動 日常生活での姿勢	菱沼他	演習
14回	動く③	関節	菱沼	講義
15回	食べる①	食べるプロセス 食欲	菅原	講義

学 習 課 題

- ① 人体の白地図に内臓を描き入れて、他者に説明可能な図になるよう、各自で練習をすること。
- ② 形態機能学Ⅱの最後に、形態機能学Ⅰ、Ⅱで学んだ知識を使って、病気の理解、看護援助への理解に結びつけるケーススタディを行う。事前に課題を呈示するので、準備をして参加すること。

実務経験を活かした教育の取組

実務経験を活かし、生活、病気に結び付く取組をする。